

錦江に生きている

さんじゆうにん目

かみふきこし
上吹越

しゅんいち
俊一さん

(上柴立自治会)



カメラになど見向きもせず練習に没頭する俊一さん



このコーナーでは、町内でこれから根を張っていこうと頑張っている若者を中心に紹介していきます。
第30回は、上柴立自治会の上吹越俊一さんです。

新聞で「一度あきらめた夢実現」と興味深い見出しを見つけた。記事に目を通すと、鹿児島県から30代の競輪選手が二人誕生した。と書いてあった。その一人が上柴立自治会の上吹越俊一さんだった。早速、南大隅町にある自転車競技場に俊一さんを尋ねると、大粒の汗を滴らせた俊一さんが出迎えてくれた。

俊一さんに、競輪選手の道を選んだ経緯を聞くと意外な答えが返ってきた。実は俊一さん、高校で始めた自転車競技だったが、23歳の時に一度諦めているとのことだった。「当時は、23歳までしかプロテストを受けられなかったんです。それで、きっぱりと自転車から降りて家業を継ぎました。2年前、年齢制限が撤廃されたことを知るまでは全く自転車とは無縁の生活をしてました。」と滴る汗を拭いながら当時を思い出すように話した。再挑戦のきっかけは？と質問すると「師匠が、『もう一度挑戦しないか。でも一年勝負だぞ。』と声をかけてくれたんです。それで、反対覚悟で両親に相談すると私の挑戦に賛成してくれました。後で知りましたが、先に競輪選手になっている弟が、両親に私の挑戦を応援してくれ。とお願い

していたみたいなんです。」と少し照れながらも嬉しそうな顔を浮かべた。不安はなかったですか？と聞くと、「実は、自転車を再開してすぐ練習中に事故にあって半年間リハビリ生活だったんです。でも、不安も焦りもなかったですね。」と話した。続けて、「周りのみんなが、『今回は、前と違って目の色が全然違った。』と言うんです。今思えば、若い頃は練習嫌いで意識も低く、あの頃プロになっていたなら今頃は辞めていたかもしれない。」としみじみ話した。毎日、ハードな練習を続けている俊一さんだからこそ感じる感覚なのだろう。

俊一さんは、今月25日から競輪学校に入学し一年間の厳しいトレーニングを積む。そして再来年の一月にデビューする。

最後に一言お願いすると「常の上を見て、弟に負けないような強い選手になりたい。そして一人前になって両親に親孝行したいです。一生懸命頑張りますのでよろしくお願いします。」と力強く話した。

32歳遅咲きのスピードスターが、錦江町から日本中に旋風を巻き起こすため、疾風になる。

編集後記

●11月を待つていたかのように急に寒気が増してきました。急激な気候の変化は体調を崩しやすくなります。インフルエンザなども多くなる季節ですので体調管理には十分に注意しましょう。

●先日、KKBふるさとCM大賞の審査会があり、DしろうとTさんと私の三名で臨みました。テレビの収録も同時に行われるため、ど緊張の三名でしたが、土壇場でしゃべることを拒否し、笑顔でこまますTさん、はしゃぎすぎて私の顔の前で手を振るDしろう、「カミカミ大王」の名に恥じぬ噛みまくりの私。こんな感じの審査会でしたがステージを降りると、極度の緊張から解放された反動で、異常なハイテンションでした。

●気になる一枚の答え。これは簡単、田代地区の流水プールの滑り台です。こんな簡単な問題を出した理由があります。実はこの子供に大人気の滑り台、老朽化のため撤去されます。しかし、ご安心ください。来年には新しい滑り台がお目見えしますので楽しみにしてください。

■発行 錦江町役場
■編集 企画課
〒893-2392
鹿児島県肝属郡錦江町城元963
☎0994-22-3032
FAX 0994-22-1951
■錦江町ホームページアドレス
<http://www.town.kinko.lg.jp>